

報道関係者各位

2019年6月18日
太陽企画株式会社

個性派女優 山田真歩 × 気鋭の女性監督 Jo Motoyoが描く 自殺がテーマのショートフィルム「Midnight / 0時」を公開

映像プロダクション太陽企画株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：岩井健二）のクリエイティブラボTOKYOは、気鋭の女性監督Jo Motoyo脚本・監督によるショートフィルム作品「Midnight / 0時」（主演：山田真歩）を発表しました。

日本の”カルチャー”を別の角度からのぞいた、
真夜中の5分間



主演：山田真歩
監督・脚本：Jo Motoyo

一見するとスマートな作品だが、山田真歩さんの視線から、映像を通して社会と向き合おうとする作り手の食欲さを感じた。

By 広瀬 奈々子(映画監督『夜明け』/2019年)

“Midnight”は際立った作品だった。シンプルな発想と物語をさらに浮き彫りにする演出で、観るものをそれぞれの世界に引き込んでいった。エンディングまで、美しく演出された本作はFabulous Fiveが目指すべき姿だ。

By Ali Brown (Fabulous Five審査員長 / PRETTYBIRD Los Angeles)

本篇はYouTubeより視聴いただけます→https://www.youtube.com/watch?v=F_0WLdJbC24

画像一式はこちらよりダウンロードしていただけます→<http://xfs.jp/32gEo>

< 本件に関するお問合せ先 >

太陽企画株式会社 広報室 担当:菊地 pr@taiyokikaku.com

About the Movie

あらすじ

「いま死のうとしてる」
深夜の119番にかかってきた一本の電話。
マニュアル通りに、救急隊を少女の元へ派遣する
救命オペレーターの主人公、可奈子。
電話口の少女は脈絡もないことを語り始める。
会話にならない会話。
「明日、生きてたらどうしよう」
そう言って、突然途切れる会話の先に可奈子は何
を思うのか。

監督・脚本を手がけたJo Motoyoがこの作品を通して描きたかったのは、逃れられない“明日”という存在。私たちが普段描く“明日”という存在は、いつも希望に満ち満ちていて、明るい。しかし現実には、一方向にしか進まない時間と共に生きる私たちにとって、気持ちと反比例するようにやってくる明日は時折、暴力的であったりする。そんな“訪れて欲しくない明日”を描こうとしたのが本作であるとJo Motoyoは語る。



Jo Motoyo監督コメント

誰しもがネガティブな側面を抱えているのに、そういったネガティブな側面に対して無意識に否定的な人が多いように思います。この作品は「明日が来るのが嫌だな」という日常的な感覚を、否定せずに描こうと思い、脚本を書き始めました。

実際のプロダクション作業～撮影時に目指していたのは、この作品が何かの答えを提示するものではないことでした。この作品を見て、何を思うか、どう感じるか、見てくれた個々人が答えを導き出せる作品にしたかった。初期の編集段階では、ラストシーンはもっとわかりやすく、私の導き出した答えがうっすらと感じ取れるような編集でした。そこを思い切ってばっさり捨て、主人公がただただPC画面を見つめる、とてもシンプルなラストシーンに編集し直しました。主人公の瞳の中にそれぞれが想いを託せる、そんなラストシーンに出来たように思います。

そのせいか、本作の感想は十人十色で、私自身、皆さんの感想を聞いてとても鋭い考察に考えさせられたり、ワクワクさせられたりしました。それぞれの尺度でこの作品を吸収してくれていることをとても嬉しく思います。

私の人生は、たくさんのアートや映像作品に支えられてきました。寂しいときも、楽しいときも、たくさんの作品たちが私に寄り添い、心を満たしてくれました。この稚作が、まだ見ぬ誰かの心に、少しでも寄り添えたら、と思います。

< 本件に関するお問合せ先 >

太陽企画株式会社 広報室 担当:菊地 pr@taiyokikaku.com

報道関係者各位

2019年6月18日
太陽企画株式会社

Production Note

セリフのないオーディション

Adfestのコンペティション部門Fabulous Five出品にむけ、課題テーマとなった「明日、今日 (TMRRW.TDAY)」を出発点に脚本を書いたのが本作。自殺を図る少女役のオーディションでは80人ほどの女性をインタビュー。少し変わったオーディション形式を取り入れ、キャストと監督陣との間にスクリーンを立て、お互いの顔が見えない状態で、セリフもない。「人生で一番辛かった経験を語ってください」というフリートーク形式でおこなわれた。

映画のなかで役を演じるだけではなく、リアリティを出せるのはその痛みを知っている人物だという考えからだ。その中で、80%をしめた回答が“いじめ”。いじめを受けたことによる人間不信や疎外感が、また別の疎外感を生んでしまう。そんなメッセージを受け取ったオーディションとなった。

Comments

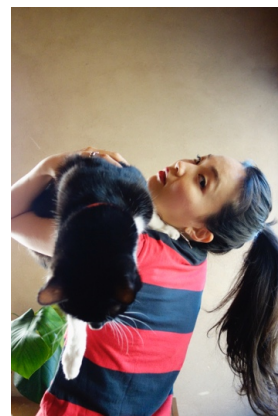
山田真歩 | 女優

11時59分からカチッと0時0分になり、秒針に押し出されるようにして新しい一日が始まる。一秒一秒、音もなく時は流れて、夜は朝になりまた夜になる。生まれてから何度そんなことを繰り返してきただろう。新しい一日を迎えるのが怖くて、眠ったまま明日が来ないことを願う少女からの電話に耳を傾けながら、救命救急センターで働く女性は“職務”から離れて、ふと自分の人生を思う。Jo Motoyoさんは、私たちがふとした瞬間に感じる、孤独や日々生きることへの疑問といった、心の隙間やヒダを描くのが上手だ。「0時」は、その“一秒”を境に、変わってしまった何かを描いている。それが何だったのかは観る人に委ねられている。



Jo Motoyo | 監督 プロフィール

日本人の父と台湾人の母の元に生まれる。武蔵野美術大学卒業後、TOKYOへDirector/Photographerとして入社。日本語、英語、中国語を話す。



「Midnight / 0時」 Staff List

Director/Writer	Jo Motoyo
Lead Character	山田 真歩 Maho Yamada
A girl	西田 彩乃 Ayano Nishida
Producer	島田 磨以子 Maiko Shimada
Cinematographer	佐藤 匡 Tadashi Sato
Editor	脇田 祐介 Yusuke Wakita
Colorist	根本 恒 Hisashi Nemoto
Title Designer	若林 恵梨子 Eriko Wakabayashi
Title Motion	竹山 寛史 Hiroshi Takeyama
Music Director	Erik Reiff (audioforce)
Composer	Jano Sela & NELSØNN (audioforce)

Production Company [TOKYO](http://lab.tokyo.jp) <http://lab.tokyo.jp>

< 本件に関するお問合せ先 >

太陽企画株式会社 広報室 担当:菊地 pr@taiyokikaku.com